

2025年度 法学部 FD 活動実績

法学部 FD 委員会委員

1. 2025年度法学部 FD 活動方針と総括

2025年度の法学部 FD 活動においては、昨年度を継承する形で、所属教員の教育能力を高め、また研究者としての向上を支援することに繋がる活動を実施していくことを方針としていた。2025年度は、大学の内部質保証委員会および全学 FD 委員会の指針に従い、かつ、法学部自己点検・評価委員会と協力・連携をしながら、とりわけ教学マネジメントの充実・深化に向けた取り組みに重点を置き、以下の活動を行った。

2. FD 研修会

- 開催日時：2026年1月21日（水） 12:55～13:30
- テーマ：法学部初年次教育のあり方 ―ベーシック演習を中心に―
- 開催方法：オンライン
- 目的：法学の初修段階で躓きがちな法学部1年次生に対して、どのような授業内容・方法が効果的であるのかという問題意識に基づき、特に少人数教育（ベーシック演習）に焦点を当て、意見交換を行うことを目的とする。
- 内容

具体的な意見交換に先立ち、以下の基調報告が行われた。

- ・岩本教授より、法学部自己点検・評価委員会での検討事項や議論を踏まえた、ベーシック演習の現状と課題について報告がなされた。
- ・大原准教授より、ベーシック演習の今後の方向性を考えるためのたたき台として、同演習で盛り込むべき内容とそのスケジュールの素案について報告がなされた。

以下、主な意見交換の内容と残された課題について概略する。

法学部の1年次生を対象としたベーシック演習は、少人数教育として1年を通じて開講され、かつ、事実上の必修科目であるため、初年次教育にとって非常に重要な役割を演じているとの基本認識を、まず確認した。もっとも、その内容については、大きく、①大学入門（図書館関係、保健関係、ハラスメント関係等）、②キャリア入門（進路関係、資格関係、留学関係）、③リテラシー入門（レポート作成法、ディスカッション方法等）、④法学入門と、必ずしも相互に関連しない各分野に分かれている。そのため、具体的な演習運営において、どの点にどの程度の比重を置くかにつき、現状では各教員の裁量に委ねられており、ともすれば学生間で理解の進化度にアンバランスが生じていることの問題性が指摘された。また、④については、憲法・民法・刑法等の基幹科目の学修前に一通りの基礎的内容を押さえておくことが、専門分野の学修にとって有益であり、ベーシック演習がその任を果たすべきとの意見もあったが、同演習で扱われるべき内容に照らし、その範囲や時期など、検討事項が多々存在することも確認された。

同研修会を通じて、一方で、理念面では、同演習に通底する基本的コンセプトの指定と、それに即した形で、①～④を必要かつ十分な内容で体系的に構成することの重要性が、他方で、技術面では、統一的な教科書作成の要否、全体講義で行うべき内容と少人数の演習形式で行うべき内容との棲み分けや担当者の配分のあり方について更に検討する必要性が明らかとなった。こうした状況に鑑み、本テーマに関しては次年度も継続して検討することで、大方の意見の一致を見た。

以上